

＜ 馬の改良増殖、保護利用増進及び馬事知識の普及事業（公益目的事業） ＞

第1 一般会計予算事業

1. 登録事業

北海道においては輓系馬、乗系馬及び小格馬、岩手県においては輓系馬及び乗系馬、青森、島根、熊本、宮崎の各県においては輓系馬を主体に登録を行った。

また、その他の地域においても乗系馬を主体に登録を行った。

(1) 登録事務の推進

登録事務の適正かつ円滑な実施を図るため、本部及び北海道事務所に技術者、事務員を配置して登録事務に当たったほか、関係団体等の協力を得て登録事務を行った。

ア、登録審査委員の委嘱

登録審査委員については、人事異動等必要に応じ、本会役職員、学識経験者、関係団体の役職員のうちから適任者を委嘱（又は任命）した（平成31年3月末現在53名）。

イ、登録審査委員研究会の開催

登録審査を厳正に実施するため、5月22日に家畜改良センター十勝牧場において登録審査委員を対象に登録実務者研究会（参加者11名）を開催した。

(2) 登録の審査

登録申込みのあった馬について、関係書類及び実馬を審査して登録を行った。

登録の実施状況（平成31年3月末現在）

（単位：頭）

区分	輓系馬	乗系馬	小格馬	在来馬	計
血統登録	1,085	232	180	129	1,626
繁殖登録	270	62	67	44	443
個体識別等	—	39	44	—	83
計	1,355	333	291	173	2,152

(3) 登録証明書の発行等

種馬登録証明書（平成31年1月1日から「血統登録証明書」、「補助血統登録証明書」及び「繁殖登録証明書」）を交付するとともに、登録情報をインターネットで開示した。

(4) 登録事務の整備

電算機を利用して登録情報等の集積・管理・提供を行った。

(5) 登録業務の普及啓発【馬事普及啓蒙推進事業から組替】

登録申請等の簡便化や各種馬事知識の普及啓発を図るため、協会ホームページを逐次更新した。

2. 乗用馬等の生産育成振興事業

(1) 乗用馬等の生産育成指導

ア、生産育成指導管理

指導技術者及び事務員各1名を置き、乗用馬の生産育成の指導・促進に努めた。

イ、乗用馬の生産育成促進指導

(ア) 北海道地区及び岩手県遠野地区の乗用馬生産農家の組織強化と乗用馬生産基盤を強化するための検討会を開催（釧路市10月9日、遠野市10月30日）するとともに生産地で開催される乗用馬市場（釧路市10月9日、遠野市10月30日）のせり名簿等の作成について協力した。

(イ) 乗用馬の資質向上を図るため、岩手県奥州市で生産された乗用種雌馬「ヴィジョイダンス1」号を買い上げるとともに北海道中標津町に繁殖用として貸し付けた。

(2) 日本在来馬の保存活用推進

ア、保存活用推進会議の開催

日本在来馬の保存活用に係る各馬種団体の保存活動の円滑な運営と活性化を図るため、連絡会議等（北海道和種：4月24日）へ出席したほか、日本在来馬の保存活用に係る各馬種団体の保存活動及び利活用等の意見を交換し、諸問題の課題の検討及び今後の在来馬の保存の在り方について広く議論を行うための全国会議（木曾郡木曾町 5月31日～6月1日）を開催した。

イ、日本在来馬の保存登録

在来馬の保存のため、北海道和種（血統登録：124頭、繁殖登録：36頭）、木曾馬（血統登録：3頭、繁殖登録3頭）、野間馬（血統登録：0頭、繁殖登録4頭）、対州馬（血統登録：2頭、繁殖登録1頭）について登録を行った（平成31年3月末現在）。

3. 農用馬等の生産振興対策事業

(1) 農用馬の整備

農用馬の資質向上と増産を図るため、農用馬の整備と生産地への適正配置を行った。

ア、種雄馬の借受配置（転貸）

家畜改良センター十勝牧場で生産育成された純粋種6頭（ペルシュロン3頭、ブルトン3頭）を借り受け、主要生産地に配置（転貸）した。

（単位：頭）

区 分	北海道	青森	岩手	島根	熊本	宮崎	計
ペルシュロン			1	1	1		3
ブルトン	1	1				1	3
計	1	1	1	1	1	1	6

イ、種雄馬の購買配置（国内購買）

ばんえい競馬で優秀な成績を残した競走馬の中から 1 頭を購買し、主要な生産地に配置した。

区 分	馬 名 等	配 置 先
ばんえい馬	ニシキエーカン (9 歳、日本軌系種)	根室生産農業協同組合連合会

ウ、種雌馬の購買配置（輸入馬）

フランス国から改良に必要な純粋種 4 頭（ペルシュロン 2 頭、ブルトン 2 頭）を購買し、家畜改良センター十勝牧場に配置した。

区 分	馬 名 等	配 置 先
ブルトン	フランシーヌ 4 (3 歳)	家畜改良センター 十勝牧場
	エクリプス (4 歳)	
ペルシュロン	フィオナ ドゥ ボー ソレイユ (3 歳)	
	フェトリエール ダトゥ (3 歳)	

(2) 農用馬の生産推進

ア、農用種雄馬の適正配置

(ア) 種雄馬配置協議会の開催

家畜改良センターから借り受けた種雄馬の適正配置を図るため、配置を希望する団体の参集を得て配置協議会（十勝牧場 7 月 27 日）を開催し、種雄馬 6 頭を配置した。

(イ) 種雄馬の管理指導

i, 配置種雄馬の管理を適正に行うため、本会の職員等が配置先を巡回し、管理状況の把握と管理指導を行った。

ii, 交配種雄馬の選定、配置転換及び登録審査等の参考に資するため、本会有配置馬、家畜改良センター有馬及び民間有の種雄馬等（種畜検査合格馬）を網羅した種雄馬名簿を作成し、関係者に配布した。

イ、農用馬の生産振興

(ア) 農用馬の生産技術の指導

農用馬の生産を促進するため、技術者及び飼養者を対象とした技術講習会等を開催した 6 団体に指導奨励金を交付した。

(イ) 研修会等の開催

i, 馬技術者の養成を図るため、7 月 10～12 日に NAR 教養センター（那須塩

- 原市) で馬事技術者養成講習 (参加者 10 名) を開催した。
- ii, 馬の診療技術者の養成及び生産技術の向上を図るため、1 月 21 日～2 月 3 日 (随時参加) に N A R 教養センターで診療技術研修会 (3 名参加) を開催した。
- iii, 削蹄技術の向上及び護蹄管理の面から、1 月 17 日に根室市で削蹄技術研修会 (13 名参加) を開催した。
- iv, 馬生産技術の向上を図るため、11 月 19 日に札幌市で生産技術研修会 (参加者 70 名) を開催した。

4. 馬事普及啓発推進事業

(1) 馬事普及特別対策事業

ア、イベント活性化推進事業 (定額助成)

地方競馬場及び畜産関係団体等 (釧路農協連他 7 団体) が実施した畜産フェア、農業祭等において開催する馬事普及教室等に対し、その経費を助成した。

イ、生産技術研修事業 (定額助成)

農用馬生産地域の生産集団等 (釧路農協連、十勝農協連) が行う生産技術調査・研修に対し、その経費を助成した。

ウ、調査研究事業 (定額助成)

農協、農協連及び農用馬生産地域の生産集団等 (十勝農協連) が行う生産技術調査・研究開発に対し、その経費を助成した。

エ、共進会等推進事業 (定額助成)

農用馬生産地域の生産集団等 (釧路農協連他 2 団体) が行う共進会の活性化を図るため、その経費を助成した。

オ、全道共進会開催支援事業 (定額助成)

北海道胆振東部地震のため、開催直前に中止となった北海道総合畜産共進会 (馬部門) の開催準備に要した経費の一部を助成した。

(2) 馬事思想普及教材配布事業

馬への関心や親しみを広く一般の人々に持ってもらうための普及啓発用教材 (ブックレット 2 万部) を作成・配布し、馬事思想の普及向上を図った。

(3) 馬事関係資料収集事業

馬への関心や親しみを広く一般の人々に持ってもらうため、「日本馬政史」を現代版に翻訳し、馬事思想の普及向上を図った。

(4) 優良農用馬学術調査事業

農用馬の生産技術の向上及び改良増殖推進に資するため、山口大学との共同研究でばんえい馬の牽引能力に係る運動メカニズム解明のための学術調査 (ばんえい競馬におけるモーメントバランスの解析及び研究) を行った。

(5) 優良農用馬生産者表彰事業

農用馬の生産意欲を喚起するため、11月19日に札幌市において特に優良な多産馬（所有者）を表彰するとともに、3月24日に帯広市においてばんえい競馬の生産の指標となる基幹2競走（イレネー記念、黒ユリ賞）の出走馬の生産者を表彰した。

(6) 農用馬等生産振興推進会議

ア、農用馬等生産振興ブロック会議

地域の実態に即した農用馬の生産振興策を検討するためのブロック会議を以下の3か所で開催した。

- ・北海道ブロック 帯広市(1月9日及び3月25日)
- ・東北ブロック 盛岡市(11月26日)
- ・西日本ブロック 熊本市(12月13日)

イ、農用馬等生産振興中央推進会議

農用馬の今後の方向性等を検討するため、全国規模の会議を開催（馬事畜産会館3月1日）した。

5. 馬の輸入精液証明書発給等事業

(1) 馬の輸入精液証明書発給等事業

仏国から日本国向けに輸出される馬精液に係る日本国内向け精液証明書の発給（平成30年度の発給実績1,067通）及びこれに関連する業務を行った。

(2) 馬精液等輸出入に係る実態調査事業

今後の馬精液等の輸出入の円滑な実施に向け、10月30日～11月5日（現地時間）の間、調査員2名をドイツ国に派遣し、製造販売の実態や輸出入手続、現地交渉窓口等についての実態調査を行った。

6. 家畜改良体制運営事業

家畜改良事業団が行う家畜改良データバンクに種馬登録データの入力を行い、登録データの活用を図るとともに、馬の個体情報の統一的な管理を行うため馬事関係団体の登録馬をホームページ上で一致させる業務を行い、データベースを公開した。

7. 褒賞事業

農用馬等の生産振興を図るため、道県で開催された馬の共進会において会長賞、副賞等の交付を行った（根室種馬共進会（7月13日）、十勝総合畜産共進会（7月19～20日）、釧路種馬共進会（7月23日）、熊本県畜産共進会（11月3日）ほか）。

また、全道祭典ばんば1才馬決勝大会（10月13日）等において後援を行うとともにや

ぶさめ競技遠野大会（7月22日）に協賛を行った。

8. 広報事業（法人管理事項を含む。）

乗用馬市場上場馬名簿等の馬事関連情報及び各種規程をホームページに掲載したほか、会員向けの「馬事協会だより」を4月と12月に発行した。

第2 特別会計予算事業

1. 在来馬種保存事業

日本在来馬種保存のため、次の事業を行った。

(1) 在来馬種保存事業

日本在来馬種を保存、利活用するために必要な飼育管理費、保存活用研究費及び施設等整備費を助成するとともに飼養管理技術の向上を図るための専門家を派遣した。

(2) 絶滅危惧種対策事業

絶滅が危惧される3馬種（野間馬、対州馬、宮古馬）については、馬種ごとに必要な施策を行うとともに、野間馬（6月14日）及び宮古馬（1月22～24日）については、現地指導（保護及び繁殖技術指導）を行った。

2. 馬能力検定体系化等推進事業（平成28～30年度）

馬の能力評価手法の有効活用等の確立のため、以下の事業を行った。

(1) 事業推進委員会開催等事業

ア、事業推進委員会

学識経験者等で構成する事業推進委員会を開催（5月9日、3月14日）し、事業の総合的検討を行うとともに最終年度となる今年度は、当該事業の事業評価を行った。

イ、専門委員会

学識経験者等で構成する専門委員会を開催（2月18日）し、フィールドレベルでの「線形審査」の検証、効率的なデータ収集と分析及び馬能力検定員の養成等に係る検討を行った。

(2) 馬能力検定員養成及び検定データの収集事業

フィールドにおける検定員の養成のための研修会を帯広競馬場（6月28～29日）、家畜改良センター十勝牧場（10月3～4日）、遠野市畜産振興公社遠野馬の里（10月26～28日）において実施するとともに最終年度となる本年度は検定データの収

集を行った。

(3) 馬能力評価手法調査検討事業

B L U P法を用いた馬のけん引能力及び産肉能力の遺伝的相関関係を調査するため、帯広市の帯広競馬場及び熊本市の千興ファームにおいてデータ収集を行った。

(4) 検定データ体制整備事業

「線形審査」の正確度の検証及び簡便に利用するためのシステムの開発等を京都大学に委託して実施した。

2. 人工授精普及定着化事業（平成 30～32 年度）

馬輸入精液の有効活用を図り、基礎繁殖牝馬群形成のため、次の事業を行った。

(1) 事業推進委員会開催等事業

ア、事業推進委員会

学識経験者等からなる事業推進委員会を開催（5月25日）し、事業の総合的検討を行った。

イ、専門委員会

学識経験者等からなる専門委員会を開催（5月25日、11月21日）し、輸入凍結精液の受胎率等の効率的なデータ収集及び分析に向けた取り組みの検討及び授精師の技術向上等の取組の検討を行うとともに基礎繁殖牝馬実証モデル作出等のための仏国産輸入精液の選定を行った。

(2) 凍結精液利用体制確立事業

ア、輸入凍結精液の利用体制の確立及び輸入した凍結精液を一時保管できる体制を構築するため、遠野市畜産振興公社「遠野馬の里」に凍結精液保管用タンク他を整備した。

イ、フランス国 I F C Eから講師を招聘し、2月4日～6日に帯広畜産大学において凍結精液を利用した人工授精の受胎率向上に不可欠の子宮深部注入法に係る研修会（受講生 12名（獣医師6名、馬人工授精師6名））を実施した。

(3) 目的別基礎繁殖牝馬群形成モデル事業

競技用、乗用など用途毎に高い能力或いは適性を備えた馬の改良・増殖を図るための基幹となる基礎繁殖牝馬群の実証モデル作出のため、当協会が保有する血統データを基に選定した牝馬に仏国産輸入凍結精液を交配した。

< 法人管理事項 >

1. 会議の開催

当協会の事業運営について審議・協議するため、総会、理事会を開催した。

(1) 総会

定時総会（6月18日 馬事畜産会館2階会議室）

議案第1号 平成29年度収支計算書（資金ベース）、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書の承認に関する件

議案第2号 定款第7条の経費の負担に関する件

議案第3号 理事及び監事の報酬等の総額に関する件

議案第4号 役員を選任に関する件

報告第1号 平成29年度事業報告について

報告第2号 平成29年度監査報告について

報告第3号 平成30年度事業計画書、収支予算書（資金ベース及び正味財産増減予算書）並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類について

報告第4号 新たな会員の入会に関する件

(2) 通常的方式による理事会

ア、第1回理事会（5月24日 馬事畜産会館2階会議室）

第1号議案 平成29年度事業報告書の承認に関する件

第2号議案 平成29年度収支計算書（資金ベース）、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書の承認に関する件

第3号議案 総会に附議すべき事項の決定に関する件

第4号議案 総会に附議すべき事項の内容の承認に関する件

第5号議案 公益社団法人日本馬事協会乗用種雌馬貸付規程の一部改正に関する件

第6号議案 任期満了に伴う役員候補者の選任に関する件

第7号議案 新たな入会希望者（賛助会員）の入会に関する件

報告第1号 平成29年度監査報告について

報告第2号 会長及び専務理事の職務の執行状況の報告について

イ、第2回理事会（6月18日 馬事畜産会館2階会議室）

- 第1号議案 会長、副会長及び専務理事の選定に関する件
- 第2号議案 公益社団法人日本馬事協定会款第7条の経費の負担（団体会員の会費）に関する件
- 第3号議案 顧問の委嘱に関する件

ウ、第3回理事会（3月6日 馬事畜産会館2階会議室）

- 第1号議案 平成31年度（新元号元年）事業計画書、収支予算書（資金ベース及び正味財産増減予算書）並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認に関する件
- 第2号議案 総会の招集及び総会に附議すべき事項の決定に関する件
- 第3号議案 総会に附議すべき事項の内容の承認に関する件
 - ・議案第1号 公益社団法人日本馬事協定会款第7条の経費の負担（会費）に関する件
 - ・議案第2号 理事及び監事の報酬等の総額に関する件
- 第4号議案 常勤役員の本俸に関する件
- 第5号議案 公益社団法人日本馬事協会職員給与規程の一部改正に関する件
- 報告第1号 会長及び専務理事の職務の執行状況の報告について
- 報告第2号 公益社団法人日本馬事協会種馬登録規程事務細則及び個体識別証明・内国産馬証明実施要領の一部改正に関する件

(3) 書面同意方式による理事会

- ・書面同意方式に依る第1回理事会（8月3日）
 - 議案 新たな会員の入会承認に関する件
内藤邦男氏（公益社団法人日本馬事協会会長）

(4) 監事監査

監事監査 （5月15日 日本馬事協会会議室）

(5) 監査の受検

地方競馬全国協会による畜産振興補助事業に係る監査（10月23～24日 日本馬事協会会議室）

2. その他

(1) 会員の状況（平成31年3月31日現在）

団体会員 69団体
個人会員 31名

賛助会員 3団体及び2名

(2) 役職員の異動

役員

・平成30年6月18日

会長就任 内藤 邦男

理事就任 栗本 まさ子、高橋 勝義、野村 宏、山内 正孝

会長退任 赤保谷 明正

理事退任 白鳥 隆志、千葉 伝、信國 卓史、武藤 清隆

※ 平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。